

科学技術・学術政策局

【かがくじゅつ・がくじゅつせいさくきょく】

- 政策課
- 企画評価課
- 人材政策課
- 研究開発基盤課
- 産業連携・地域支援課

イノベーションの連続的創出を実現するための仕組みを作ります

科学技術イノベーションの連続的創出を実現するための基本的な政策の企画・立案を行っています。科学技術に関する調査・評価等のほか、児童生徒から第一線の研究者・技術者に至るまでの幅広い科学技術関係人材の育成、科学技術分野における国際活動の戦略的推進、産学官連携の推進、地域における科学技術の振興や研究開発基盤の整備・共用・プラットフォーム化などの分野横断的な取組により、科学技術イノベーション政策の推進を行っています。

科学技術・学術に関する基本的な政策の企画・立案

文部科学省では、5か年の政府の基本方針である第5期科学技術基本計画(平成28年～32年度)等に基づき、「世界で最もイノベーションに適した国」の実現に向けて総合的な科学技術及び学術の振興に取り組んでいます。科学技術・学術政策局では、同計画を踏まえ、将来にわたる持続的な成長と社会の発展の実現に向けた科学技術イノベーション政策を企画・立案及び推進しています。また、こうした重要政策について調査・審議することなどを目的として、科学技術・学術審議会を設置し、幅広く審議しています。同審議会において、基本計画の推進状況を全体俯瞰の観点からフォローアップするなど、同計画の推進に積極的に貢献しています。

[HP](#) 「科学技術基本計画」

[HP](#) 「科学技術・学術審議会」

科学技術に関する調査・評価等

科学技術に関する内外の動向調査や分析のほか、「科学技術イノベーション政策のための科学」の推進を通じ、客観的根拠(エビデンス)に基づく政策の企画立案等の充実を図っています。また、「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」を策定し、これに沿って研究開発評価の実施や取組の定着・改善を進めています。

加えて、科学技術基本法に基づき、毎年、政府が科学技

術に関して講じた施策について、科学技術の振興に関する年次報告(科学技術白書)を作成し、国会に提出しています。

科学技術関係人材の育成



第5回科学の甲子園全国大会都道府県代表チーム対抗の実技競技の様子(提供:科学技術振興機構)

人口減少・少子高齢化が急速に進む中で、我が国が成長を続け、新たな価値を生み出していくためには、科学技術イノベーションを担う多様な人材の育成・確保が重要です。科学技術人材の裾野拡大を図るとともに、優れた研究人材の育成を推進するため、初等中等教育、高等教育、更には博士号取得以降の各段階における人材育成を体系的に進めるとともに、若手・女性・外国人研究者や研究支援人材、技術士など多様な人材の活躍促進、公正な研究活動の推進に向けた取組を進めています。

科学技術に関する国際活動の戦略的推進

世界各国・地域との科学技術協力や国際機関への協力を推進しています。また、地球規模で抱える課題に対応し、我が国の優れた科学技術と外交を連携させる「科学技術外交」を展開するため、国際共同研究等を推進しています。さらに、研究者の派遣・受入れを通じた国際交流を推進し、国際的な研究ネットワークの構築に向けた取組を進めています。



地球規模課題対応国際科学技術協カプログラム(SATREPS)採択課題「テラーメード育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト」におけるイネの遺伝子解析実験の様子(相手国:ケニア共和国)

イノベーション創出に向けた人材、知、資金の好循環システムの構築

我が国の発展に資するイノベーションの実現や、大学等の教育・研究の活性化のためには、人材、知、資金の好循環を創出していくことが不可欠です。このため、産学官による共同研究の推進、大規模産学連携研究拠点の構築、大学発ベンチャーの創出促進、研究経営人材や起業家マインドを持つ人材の育成、知的財産の戦略的活用等に関する事業を実施しています。また、「地方創生」に資するイノベーションシステムの構築は、地域の魅力を生かした新しい製品やサービスの創出、既存産業の高付加価値化のために重要です。このため、地域主導による科学技術イノベーションの創出を支援しています。

[HP](#) 「産学官連携、地域科学技術振興」

研究開発基盤の強化

世界最先端の研究成果を創出するには、研究者が使用する研究施設・設備・機器など研究開発の基盤となるものを世界最先端の水準に維持する必要があります。このため、大型放射光施設(SPring-8)やX線自由電子レーザー施設(SACLA)、大強度陽子加速器施設(J-PARC)をはじめとする研究施設・設備等を整備し、産学官がこれらの研究施設・設備を共用することを推進しています。また、幅広い分野の研究開発に役立つ基盤的な技術である最先端の計測分析技術・機器や、光・量子科学技術に係る研究開発・利用研究を推進しています。

また、科学技術イノベーション創出の基盤技術として近年重要性が高まっている量子科学技術をより一層推進していくため、平成28年4月には国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構の発足により、量子に関する科学技術の水準の向上を図っています。

さらに、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、先端ロボット技術によるユニバーサル未来社会の実現に向けたプロジェクトを推進しています。

[HP](#) 「研究施設共用に対する取組」

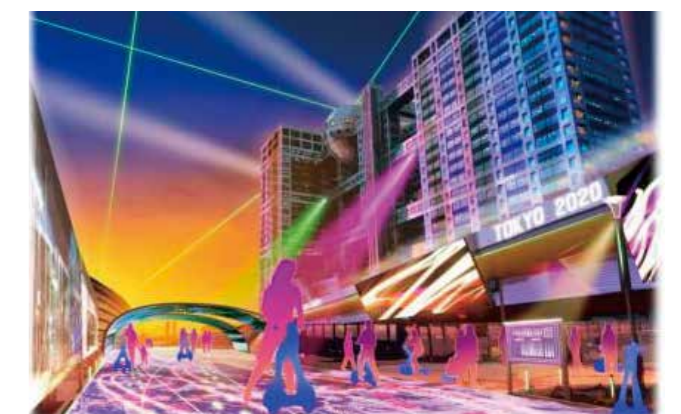
[HP](#) 「量子ビーム」

[HP](#) 「量子科学技術研究開発機構」

[HP](#) 「ユニバーサル未来社会推進協議会」



大型放射光施設(SPring-8)(右:円形の施設) X線自由電子レーザー施設(SACLA)(左:直線状の施設)(提供:理化学研究所)



ユニバーサル未来社会のイメージ(illustrated by TENJIN)